

令和5年度第1回 鶴岡市文化会館運営委員会 会議録

日時：令和5年12月19日（火）

午後6時30分～8時20分

会場：荘銀タクト鶴岡 小ホール

[出席者]

委員：草加叔也氏（会長）、太下義之氏（副会長）、白幡徳明氏、高橋勝敏氏、渡部真喜氏、兼子由香氏、加藤弘人氏

事務局：【鶴岡市教育委員会】布川敦教育長、永壽祥司教育部長、沼沢紀恵社会教育課長、石川誠芸術文化主査、渡邊雅之芸術文化係専門員、

【指定管理者（タクトつるおか共同企業体）】

有地裕之開発公社常務理事、押切良輔開発公社次長、

榊原賢一芸術文化協会事務局長、佐藤潤到文化会館事務長、

高橋正展文化会館主査、伊藤玲子文化会館主任

[公開・非公開の別] 公開 傍聴8名

1 開 会（社会教育課長）

2 挨拶（教育長）

3 委員紹介

4 正副会長の選出について（会長：草加叔也氏、副会長：太下義之氏）

5 協 議

（1）令和5年度事業報告（中間）について

（2）令和6年度事業計画（案）について

事務局より資料説明：資料1、2

会長：委員の皆様から質問・意見を伺う。

委員：コロナが2類から5類に移り、コロナ前の状況に徐々に近づいている認識はある。公演の客数は先ほど事務局から説明があったとおり、完売する公演もあれば、人数が少ない事業もある。お客様が興味のある公演だとリピーターが非常に多いという印象がある。お客様は高額なチケットを購入し、荘銀タクト鶴岡へ足を運んでいただいているので、お客様が楽しく、そして良かったと思えるような公演になるようサポートしている。

参加体験事業の中では、開館5周年記念事業「つるおか市民で歌う第九」の市民サポーターをさせていただいた。音楽のまち鶴岡というイメージがすごくあり、資料で相当な練習をされたことを知り、参加された市民の方々がとても頑張ったという印象を持った。

6年度の事業案に関しては、バランス良く事業を進めていく事は非常に難しいと思う。やはり収支の関係もあり、1つの事業だけに偏る事も出来ない。6つの事業のバランスを上手に案として組まれている印象を受けた。

委員：毎年、鑑賞事業を見て、私も行きたかったといつもそんな風に思っている。なかなか行けていない状況だが、非常に集客の多い事業もあるし、なかなか厳しい事業もある。やはり、宣伝が課題だと思う。高校という立場で見えていくと、やはり高校生、10代後半から20歳位までの方がいかにここに来るのかと考えた時、鑑賞内容でいうと、なかなか足が運びづらい内容であるのかと思う。

タクトの前を通った時に、今日は賑わっているなという時がある。そういった姿をどんどん色々なところで発信していくと、何だろう、行ってみたいと興味を持つ。高校生が来ているのは、エントランスで勉強している姿であり、その人達が何か面白そうな事をやっているかと拡散すれば良いのではと感じている。

若い人達をどのように集客していくかがこれからの課題である。そういう点で、アウトリーチで小学校、保育園に出向き、タクトでこんな面白い事やっているという事を印象づけて、その子達の年齢が上がっていった時に、荘銀タクトの事を思い出し、タクトに足を運んでくれたらと思う。

本当に様々な事業をされており、努力されてる事が非常にわかる。これからの課題については、若い高校生の知恵を出し合う、そういう場もあって良いと思う。

会長：最近の高校生は大変忙しいかもしれないので、なかなか時間を見つけてタクトへ足を向ける事がまだまだ少ないかもしれないが、今の発言のように、小学校のアウトリーチ、敷居を低くして子ども達がいつでも敷居をまたぐ事が出来るよう、そのように教えていく事も大切かもしれない。いきなりタクトが出来たから文化が盛んになったというのも難しいので、10年20年かけて子ども達がタクトに足を向けてくれるよう、皆さん頑張ってもらっているという感じがした。

委員：幅広い世代を対象に、大変工夫された素晴らしい事業に取り組んでいる事を改めて知る事が出来た。

伺いたいのは、例えば「TACT おとアート 2023」で3,500人の方々が来て様々な年齢層からの参加があったという事だが、例えばこの事業でも良いし、ミュージカルでも良いが、中学生はどれ位参加しているのか。

事務局：今回中学生向けにピンポイントで開催したのは、音楽アウトリーチ、オペラのアウトリーチだったので、600人に届ける事が出来たが、それ以外タクトに運んでいただ

いた中学生はわからない。他には「TACT おとアート」で高校生ボランティアの方から運営に携わっていただいた。また、中央高校さんの美術の授業で取り組まれているデザイン科の生徒さんの作品展示を行った。実際関わってもらい出品した生徒、関係している友人や兄弟には来ていただいている。

委員：先ほどの委員からあったように、興味関心があっても、中学生も忙しい。例えば10月の「TACT おとアート」の時期というのは、中学校は合唱祭の直前だったり、テストも終わった直後であったりなど、なかなか興味関心があっても足を運べない生徒がいるのかと思った時、これも先程話題になったが、アウトリーチ事業はとても貴重だと思っている。

アウトリーチ事業で本校に来てもらったが、子ども達が絶対的な実力のある方々を目にする、体験するというのは、多感な中学生の時期を考えると、それが1つの契機になり、例えば、これからの進路にも場合によっては影響がある。このアウトリーチ事業は先程の説明だとなかなか補助金の関係で運営も容易では無いところもあるとの事だが、是非広げてもらえると、芸術文化に対する興味関心が非常に広がるのではと思った。

その中でも、演劇をとおして自己表現や自己開示を取り入れようという動きがあると聞いているし、もし中学校あたりの門戸を広げる事が出来るのであれば、是非案内を出してほしい。

最後のボランティアについて、「TACT おとアート」へ高校生ボランティアの参加という事だったが、中学生へ募集だけでもかけてもらい少しでもタクトを身近に感じたり、芸術文化を身近に感じる機会を提供してほしい。

会長：鑑賞への参加だけではなく、運営への参加というのも方法としてはあると思う。アルバイト代を払う訳にはいかないかもしれないが、他のところでやっているのは、地域通貨を発行し、それが5枚貯まると何か公演が無料で見れるとか、満席になってないような公演もあるので、そのような工夫をしていく方法があるかもしれない。

委員：コロナが明け、皆さん工夫を凝らして昨年よりも利用者数が増える予定だという事で、努力されて運営していると思う。ただ去年より増えるという事だと目標が低いので、3倍4倍と増やしていただければ有難い。

なるべく幅広い層の方から利用してほしいが、やはり10代～30代の方からたくさん来てもらえるといいと思うし、その為には何かを企画する際マーケティングというのはとても重要になる。どこにターゲットを絞るかによってやっていく事が変わってくると思う。催したイベントについては、簡単なアンケートで良いので、3～5問位、年代はどうなのか、何が楽しかったのか、どこに住んでるのか位の質問を蓄積していくと、やっていくイベントにもっと工夫が出てくると思う。

知り合いが、eスポーツを楽しみながらイベントをしてとても盛り上がったとの事だった。体育館よりは、こういう場所の方が音響もしっかりしており、設備も整っているので、設備投資し、中高校生、それから社会人の若い人は、そういう使用目的に合致するのであれば良いのではないかと思うし、色々な可能性がある施設だと思う。ダンスにしても今Dリーグはとても人気がある。資金的にはかなりかかるが、呼んでみようとか、資金面はクラウドファンディングやガバメントクラウドファンディングでもいいし、こういったものを使って1度呼んでみるというのも面白そうだと思う。

会長：eスポーツも最近ではホールのターゲットになりつつあるが、インターネットをどれだけ高速のところと繋げるか、NTTに繋がれば高速回線を使う方法もあるので、インフラを少し考えなければならない。出来るか出来ないかというのは、今後確認をしたらど

うかと思う。

委員：eスポーツの話題が出たが、ゲーム関係の興味がある方は、20代・30代だと沢山いると思うので、インターネットでなくても大きい画面で対戦ゲームやるというだけでも盛り上がると思う。

今回、資料等を確認し、様々な鑑賞事業や育成事業を実施されており、地域の文化芸術に対する理解と関心がすごく深まっていると思ってる。

次に課題となってくるのは、興味を持ったので表現してみたいとか、逆に表現の仕方がわからないという方も多々いると思う。私もダンスに少し興味があり、どうすればいいだろうと思ったりするが、その中で、参加・体験事業の「ダンスワークショップ」あとは表現する場として「TACTおとアート」、こういう場が今後より一層増えていくと、本格的に興味関心を持つ方がどんどん増えると思う。

課題となるのが、広報だと思う。事業をしても、興味関心のある人に届かない、参加者が少ないともったいないので、広報でしっかり発信していく。今されてるかわからないが、TwitterやYouTubeの有料広告だと結構細かく年齢層や地域を絞って広告出来る。若い人だとYouTube、Instagram、Xを結構見ているので、SNSで広告を見ると、ちょっと行ってみようと思ったりする。インターネットの有料広告を活用するのいいと思った。

先程中高生の運営への参画とあったが、私達もイベントの運営で中高校生のボランティア募集をしており、とても興味関心を持って自発的に応募してくれる方がいたので、運営の参画、どのような形になるかはこれからの課題になると思うが、今後検討してもらいたい。

副会長：タクトについては以前にも話したが、決して多くないスタッフ数で、かなり沢山の事業を本当に頑張ってるやっていると。思う。

今日の資料の中で、特に興味深いのが「TACTおとアート」。これは市民サポーターが主体となって、タクト全館を使って開催する、非常に面白いプログラムだと思うので、是非継続していただければと思った。

スタッフ数が限られる中で、あまりいろいろ言うとは重荷になると思うが、私が関わっている基礎自治体の中で、千葉県船橋市では音楽のプログラムが盛んであり、例えば、ミュージックストリートというイベントで、毎年秋に目抜き通りで、市民とアマチュアとセミプロの方がストリートでライブをするというイベントがある。これをおとアートと結びつけるのが良いのかわからないが、館内全館プラス、市役所やその他の館外の場所で開催するのもいいと思う。

会長：資料を見て、よく出来ていると思う。これだけの量をこなすという事も大変だし良くやっていると。思う。

内容も、集客がどうかは別として、とても高いレベルの事をやられてる。山響さんでは原田慶太楼さんがマエストロで来ている。原田さんは今、若手の指揮者ではピカイチのマエストロであり、阪さんのマエストロを聞くのもすごく良いと思うが、原田慶太楼を聞けるというのは、そんなチャンスがある訳ではない。今、東京交響楽団の確か首席をやられてると思う。

東京混声合唱団の山田和樹さんもブサンソン国際指揮者コンクールで1位を取った方なので、そのような人の指揮が聞ける機会はあまりない。東京スカパラダイスオーケストラ、森山直太郎、こういう人気のあるアーティストも招聘出来ているというのも魅力的だと思った。

それから「Dance! Dance! タクト」で、先生へのインリーチをやられているのは重要だと思う。指導者を指導するというインリーチというのは今、重要な課題になってい

る。

それから「弁当の日」上映会、鶴岡にとって食文化は文化だと言い切る事としては、すごく重要だと思う。その他事業、大変色々な事やられてる。

地域創造事業、地域創造というのは実は経済産業省の外郭団体で、元々自治省として各地の劇場に支援をしている団体であり、こういうところから支援をいただいて事業が出来るというのは、大変注目をされてる事だと思う。公文協も公立文化施設協会という全国組織であり、そういうところのネットワークを作っていくというのも、今はインフラを鍛えていくうえでは、よくやられてるという印象を受けた。

今年度（利用者）7万3000人位かもしれないという話だが、鶴岡市の人口が11万位だと思うので、ほぼそれに匹敵する。赤ちゃんからお年寄りまで全員が1人ずつ来る位のボリュームになりつつあると思うので、是非そういう事も評価の1つに入れたらどうかと思った。

(3) 開館から5年を経過しての今後の取り組みについて

①施設の利用拡大について

②市民参画について

事務局より資料説明：資料3、4

委員：利用拡大については、本当に難しい課題である。若者世代のタクト利用となると、今はSNSの発信、誰か1人がつぶやけばそれに対して反応がすごいと思う。若い世代の方にはとても効果があると思う。逆に高齢の方は、市の広報等を見て、例えば無料で参加、無料での公演、はがきで応募となるとすごい倍率だと聞いている。

お客様も自分からはがき1枚で当たったという声もあり、高齢の方は特にそういった無料とか、ワンコインなど足を運ぶ方が多い。

また、劇団四季は開館以来ファンの方が多いし、鶴岡市外から足を運んでくれる方も多く見受けられる。地域密着型のタクトとなると、なかなか事業展開が難しく、アウトリーチや様々な事業を実施しながら、荘銀タクト鶴岡の魅力を少しでも1人でも多くの方にわかっていただく事は、本当に長い期間を見据えて考えないといけない。すぐに認知度が上がるものでは無いと思う。

様々なPR方法、また、市民がそれぞれ興味を持つところは違うと思うので、その各分野をどのようにPRしていくかが課題だと思う。

会長：Facebookやエックス、Instagramのフォロワー数がどれ位伸びているか、少し見ていく必要があるかもしれない。

委員：高校生による利用希望調査というのがあるが、高校では探究活動というのをやっている。特に地域課題について各校取り組んでいるので、そういった生徒のテーマになると思う。市民参画にもなるし、高校生の声を聞けると思うので、是非活用していただきたい。

委員：吹奏楽部が定期演奏会でタクトを利用している。これは保護者の方の思いもあるが、やはり、音響の素晴らしさ、晴れの舞台に是非子ども達をタクトのステージに立たせたいというその思いがあつての事である。

また、今後の部活動の地域移行、特に合唱は鶴岡ジュニア合唱団がタクトを何回か利用している。要望になるが、やはり回数を増やすためには、利用料金が少し高い。料金の兼ね合いもあるが、スケジュール調整の際、例えば中学生の活動時間帯という16時から18時までとなり、時間帯を柔軟に開放していただけず、調整が少し難しいという声も実際聞こえてくるので、要望だけだが、何らかの改善等していただければ有難い。

会長：利用料金、利用時間帯というのは条例と絡む話なので、簡単には解決出来ないかもしれないが、もう一度、そういう実態があるのかどうかも含め、検討いただければと思う。

委員：利用料金について、無料という訳にはいかないと思うが、使ってもらう事が本当に大事で、利用料金を取るという事もあるが、すべて無料のイベントというインパクトが大きいと思う。

委員：施設の利用拡大に向けた取り組み、情報提供の拡充を先程話したが、やはり、情報を取りに行く人は、Twitter、Facebook、Instagramを見ている。逆に、自分から取りに行かない人にどのようにアピールするかというと、やはり有料でのターゲットを絞った広告はすごい良いという事。あとは、やはり面白いもの、皆さんのニーズに合ったものだと、自ずと口コミも広がり、皆さん利用したいと思う。そこで、この市民参画にある市民ニーズの把握があると思うが、この呼びたい層の例えば20代の人達であれば、大体20代の団体の代表さんを集めて意見を聞く、ワークショップのような感じのものを開催したら直接的な意見を聞けるし、結果として、市民参画にも繋がると思うので、是非検討していただきたい。

副会長：①の施設の利用拡大についてと②の市民参画についてというのは、実は裏表の関係にある。施設の利用拡大、そうなれば良い訳だが、これはそんなに簡単には多分いかない。それを進めていくためにも市民参画というのを地道にやっていくというのが結局は近道の場合であると思う。

私が関わっている自治体で市民参画について面白い事をやっている所があり、2、3ご紹介したい。

1つは青森県八戸市、人口22万人位であり、ここでは、はちのへアート広場というプログラムを実施している。はちのへアート広場というのは、市内で面白い文化活動をしている人を毎回3、4名呼び、テーマを決め、その方達の活動紹介とディスカッション、シンポジウムみたいな形で実施している。そこに一般の市民の方々、ある程度文化に関心のある市民の方々が聴衆として参加している。フロアからも質問をもらいやりとりするイベントを定期的開催している。こういう活動を通じて、文化に携わってる人同士のネットワークづくりとか、やがてはそれを通じて、アーツカウンシル的な市民が自立して文化を支えるような基盤づくりを目的にしている。

2つ目は東京都豊島区、ここではアトカル大使という制度がある。これは鶴岡市で今やられている市民サポーターに近い。アトカルというのは、アート・カルチャー都市構想という豊島区の文化政策で、このアート・カルチャー都市構想を応援する応援団ということである。大使になるには会費が必要で、年間5000円位払うと大使の名刺がもらえる。結構な方が大使になっており、今1,500人位、皆さん名刺を持って名刺を配ったりしている。鶴岡市の市民サポーターの方々も、名刺を持っていただくと、市民サポーターの方一人ひとりが、アンバサダーとして、そういう役割を果たしてもらえるのではないかと思います。

もう1つ、東京都港区の事例だが、ここでは文化芸術ネットワーク会議というのを年

2回開催している。文化芸術ネットワーク会議とは、港区内に文化に携わっている様々な団体や施設があり、こういう方々がお互い連携出来るようネットワークを構築してもらうように、そういう方々から集まってもらい会議を開催してるが、ただ会議開くと言っても皆さん来ないので、毎回シンポジウムや講演会のように聞いてみたいと思うような企画をして会を開催している。

例えば、コロナの間もリモートオンラインを使用しながら継続していたが、「文化イベント時のコロナ対策をどうしたらいいか」というテーマで、文化関係者や文化に携わっている人に関心のあるテーマで開催した。

今日の資料でも、市民サポーターを対象としたアートマネジメント講座の開催についても、これに近い感じである。

アートマネジメント講座というと少し堅い感じだが、もっとコンテンツとして聞いてみたいと思うような形にすると、鶴岡市内、または周辺も含めて、文化に携わってる方々が集まり、そしてネットワークを作っていくという事になっていくと思う。

一方で、資料にある、市民ニーズの把握で、市民へのアンケートと書いてあるが、多分アンケートをしても、残念ながらあまり声は書かないと思う。文化会館ホールに対して、こうして欲しいという明確な要望は持っていないと思う。むしろ、市民サポーターのニーズをうまく吸い上げながら、どのように事業を作っていくかを検討する方が望ましいのではないかな。

会長：私も公立文化施設の経営に関わってる一員であり、利用拡大というのは本当にジレンマがある。こういう施設は9時から22時で大体貸している。13時間開館しており、その前後1時間位前に来て、また、市民の利用が終われば後片付けして帰らなければいけないので、15時間位の拘束が必要である。という事は2交替で運営しなければならない。利用が増えれば増えるほど、時間の拘束が増えていくので、私共は今の36協定なんていうのは関係ないところで仕事してきたが、今はそうはいかないので、その枠の中でやらなければいけないというのは、相当苦労が多い。要する人が足りなかったら、人を増やさなければいけないというジレンマがある。作業量、それに拘束時間が長くなれば、それだけ人を増やさなければならない。今の人数で出来る最大限どこまで出来るかという事も見極めていかなければならないのではないかなと思った。そんな中で、先ほど意見のあったように市民参画というのをどれだけ増やしていくかという事が、利用拡大に繋がっていくのではないかと私も思った。

もうすでに「TACTおとアート」でかなり実践的にやられているのであれば、それを鑑賞者、参加者だけでなく、先ほど言った運営への参加、ポスターを書いてくれる人など、色々な人を巻き込んでいく、もしかしたら法律に詳しい方、あるいは何かを作るのにお手伝いしてくれる工務店とか様々な業種あるいは様々な方々を巻き込んでいくという仕組みを作っていく「TACTおとアート」みたいな事業は、すごく良いサンプルになる気がした。是非無理のない範囲で実施してほしい。

運営委員会の見直しという事については、今回から公開にして、今日何名かの方に参加してもらった。関心ある方が沢山いるんだという事がわかった。もうすでに市民参加、多くの委員は市民なので、市民参加になっていると思うが、色々な方法での参加があると思うので、それは事務局のほうで改めて考えていただければ良いと思う。

事務局：私達が気づかなかった点を、委員の皆様からご紹介いただいた。高校生の探究活動、そういう活動と一緒に若人達からのアイデアをもらえる、どのような形でアイデアをもらえば良いか私達の課題でもあった。

今後、事務局で検討しながら市民参画や施設の利用拡大について、また、他の所についても皆様からご意見をいただきながら、タクトについて良い施設だと身近な感じで関わっていただけるよう、指定管理のタクト共同企業体と市と一緒に積み上げていき

たい。

(4) その他 : 特になし

6 そ の 他 : 特になし

7 閉 会 : (社会教育課長)